

第1学年3組 道徳科学習指導案

指導者

令和7年9月25日(木) 第5時限 1年3組教室

- 1 主題 うそや ごまかしを しない [A-(2) 正直、誠実]
- 2 教材 あのね(教科書P104~109)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値観

人が健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。また、自己の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心がけようとする姿勢をもつことが大切である。

低学年の発達段階においては、いけないことをしてしまったときには素直に非を認め、謝ることができるとともに、人の失敗を責めたり笑ったりしないようにし、正直で素直にのびのびと生活できる態度を養うようにすることが求められる。そこで、うそやごまかしをしないで明るい心で生活しようとする意識を高めることは、「正直、誠実」を考える上で大切なことであると考えられる。

(2) 児童観

本学級の児童は、正直に言うことの大切さについて理解している。しかし、それを実行に移すことは難しいようである。いけないことをしてしまったときに叱られることから逃れようとする気持ちが働くからか、うそをついてしまう児童が多くいるように見受けられる。また、授業でも、できないことをできるとごまかししたり、分かったとうそをついたりしてしまい、正直に行動することができないことも少なくない。

そこで、うそやごまかしをせず、正直でいることの大切さについて考えさせ、正直に行動する道徳的実践力を育てたい。

(3) 教材観

本教材は、チッチが赤い車を拾い、勝手に借りてしまう場面から始まる。友達のトービーに「赤い車知らない？」と聞かれるが、チッチは知っているのに思わず「知らない」と答えてしまう。そのせいで胸がちくちくして、楽しく過ごせない日が続くようになる。ある日、トービーがそんなチッチに対してとげ抜きを持ってくると、トービーの優しさに触れたチッチは赤い車のことを正直に話す。すると、トービーも兄のおもちゃを勝手に持ち出していて、胸がどきどきしていたことを明かす。チッチはトービーを連れて兄に謝りに行こうとし、二人の胸はちくちくもどきどきもしなくなるという話である。うそやごまかしをせず、正直でいることの大切さに気付き、うそやごまかしのない明るい心で生活しようとする実践意欲と態度を育てるのに適した教材である。

指導にあたっては、教材に基づいて登場人物の気持ちを確認しながら、学習活動を展開する。まず、チッチが「知らない」とうそをついたときの気持ちを考えさせる。その際に、チッチがうそをついたことを確認し、チッチがうそをついたことで問題が解決したのか、チッチに後悔はなかったのかを問いかけることで、うそをついても状況がよくなることはなく、むしろ後悔や自責の念が生まれてしまい、胸の痛みを感じるようになることに気付かせたい。次に、自分だったらトービーに正直に言えたかを考えさせる。考えの異なる児童の意見を多く取り上げることで、正直に言うことについての考えを深めさせたい。教材を通して、正直に行動するときの葛藤や正直でいることのよさについて考えさせ、うそやごまかしのない明るい心で生活しようとする児童を育てていきたい。

4 指導計画 1時間完了

5 本時の指導

(1) 本時のねらいと評価

チッチの行動について考えることを通して、うそやごまかしをせず、正直でいることの大切さに気付き、うそやごまかしのない明るい心で生活しようとする実践意欲と態度を育てる。

【評価】(ワークシートの記述内容)

うそやごまかしをせずに生活するために大切なことは何かを考えようとする気持ちを述べている。

(2) 準備・資料

教師 場面絵 ワークシート (WS) 心のモデル とげ 劇の台本 紙コップ (赤色と青色)

(3) 関連

本教材では、うそやごまかしをせず、正直でいることの大切さに気付き、うそやごまかしのない明るい心で生活しようとする児童の育成をねらいとする。そして、「くまさんのおちゃかい」では、うそやごまかしをせず、素直に謝ることの大切さに気付き、うそやごまかしのない明るい心で生活しようとする児童の育成をねらいとする。

(4) 指導過程

本時の学習課題

◇ 主な発問

◆ 中心発問

補 補助発問

段	分	学 習 活 動	指 導 の 手 だ て
導 入	3	1 これまでの生活を振り返る。 ◇ 失敗したときに、正直に言えますか。 ・ 言える。 ・ 言えない。	○ 正直という言葉を知っているか確かめ、失敗したときなどに正直に言えるか問いかける。 ○ 価値への導入を図ることで、正直に言うことについて問題意識をもてるようにする。 ○ 「言える」「言えない」それぞれの行動をしたときの気持ちについても問いかけるようにする。 ○ うそをついたときの嫌な気持ちを、なくしていきたいことを伝える。
	1	2 本時の学習課題をつかむ。 うそをついたときの「どきどき」「もやもや」は、どうしたらなくなるのだろうか。	
展 開	4	3 教材の範読を聞き、登場人物の心情について話し合う。 (1) 教師の範読を聞く。	○ 登場人物を先に伝え、チッチの思いを考えながら範読を聞くように促す。(場面絵) ○ チッチが「知らない」と言ったことは、本当のことだったのか、うそだったのかを確認する。 ○ 場面を想起しやすいように劇化する。(劇の台本) ○ 劇を見てどう思ったか、劇を演じてどう思ったかを問いかける。 ○ チッチがうそをつくことで問題は解決したのか、チッチに後悔はなかったのかを問いかける。 ○ 導入の正直に言えないときの気持ちを想起させることで、どうしてチッチは胸がちくちく痛いのかを想像しやすくする。 ○ 子どもが考えを発表する毎に心のモデルにとげを刺すことで、うそやごかしをすると胸にとげが刺さっていくことを視覚的に分かるようにする。(心のモデル、とげ)
	5	(2) チッチが「知らない」とうそをついたときの気持ちを考える。 ◇ チッチが赤い車を「知らない」と言ったとき、チッチはどんな気持ちだったでしょうか。 ・ 怒られるかも。 ・ まだ遊んでないから。 ・ 車が欲しいから。	
開	15	(3) チッチの胸がちくちく痛いのはなぜかを考える。 ◆ チッチの胸がちくちく痛いのは、なぜだと思いますか。 ・ トービーにうそをついたから。 ・ トービーに本当のことを言いたくても、言えなかったから。 ・ いけないことをしたから。 ・ うそがばれたくないから。	○ 劇を見てどう思ったか、劇を演じてどう思ったかを問いかける。 ○ チッチがうそをつくことで問題は解決したのか、チッチに後悔はなかったのかを問いかける。 ○ 導入の正直に言えないときの気持ちを想起させることで、どうしてチッチは胸がちくちく痛いのかを想像しやすくする。 ○ 子どもが考えを発表する毎に心のモデルにとげを刺すことで、うそやごかしをすると胸にとげが刺さっていくことを視覚的に分かるようにする。(心のモデル、とげ)
	10	4 自分だったらトービーに正直に言えるかを考える。【個→斉】 ◇ 自分だったら正直に言えますか。 [言える] ・ トービーがかわいそうだから。 ・ トービーに悪い。 ・ 胸のちくちくが我慢できないから [言えない] ・ やっぱり怒られたくないから。 ・ 正直に言ったのに、怒られたことがあるから。	○ 紙コップの色で、個々の立場を可視化できるようにする。(紙コップ) ○ どちらを選んだか、理由とともに発表することを伝える。 ◎ 多数の意見を取り上げてから少数の意見を取り上げることで、考えの深化を図る。 ◎ 言うかどうかの葛藤がある児童を意図的に指名することで、言えるけど言いたくない気持ちや、言えないけど言いたい気持ちが混ざっている意見を引き出す。 補 自分がうそをついたときは、どんな気持ちになっていましたか。 補 正直に言っても、怒られるかも知れませんよ。 補 言わないままだと、ずっと胸のちくちくが続きませんか。
終 末	7	5 今日の授業の振り返りをする。【個→斉】	○ 日常生活を振り返り、本時の学習内容と結び付けて書くように伝える。(WS) ○ 心のモデルを再び提示し、うそやごまかしをすると心にとげが刺さったことを想起させ、とげが刺さらないようにするにはどうするとよいか考えを引き出す。 ★評価の場面

6 反 省

7 高 評